

平成30年度

事務事業評価表 A (平成29年度の実績評価)

記入年月日
平成 30 年 4 月 20 日

事務事業名		空き家対策事業				事業区分		担当	
						新規/継続	継続	事務事業No.	050202000697
		政策体系上の位置付け				単独/補助	補助		060201
政策体系	総合計画の施策名	0502 住環境の整備と景観形成				主要事業		所属課	都市整備課
	政策名	05 快適な暮らしのまちづくり				市長マニフェスト			
	施策名	02 住環境の整備と景観形成				未来PJ事業		グループ	空家対策室
	手段名	02 ②定住・空き家支援の推進				合併建設計画事業			
財務会計上の位置付け						事業期間			
予算科目	会計	款	項	目	事業	細	一般会計		
	01	08	04	01	00	00	単年度繰返し (平成25年度~)		
法令根拠	空家等対策の推進に関する特別措置法								
	[Do] 1. 事務事業の現状把握(その1)								

手段	①事務事業の概要 (事務事業の全体像)		②担当者が行う業務の内容・やり方・手順		
	<p>【事務事業の内容】</p> <p>桜川市空家等対策計画に基づき、空家等対策の推進及び空家等の活用の促進を図ることにより、市民が安全に安心して暮らすことができる生活環境を確保するとともに、地域社会の活性化に寄与することを目的として事業を行ないます。</p> <p>事業項目</p> <ul style="list-style-type: none"> 空家等の抑制 所有者等による空家等の適切な管理 空家等の利活用(空家バツなど) 総合相談・苦情窓口 		<p>空家等対策計画に関すること</p> <p>関係各課との対策協議</p> <p>利活用空家(申請データを基に調査、空家情報Web掲載、問合せ対応、仲介依頼、空家情報更新)</p> <p>特定空家認定(相談・苦情対応、空家状況の把握、管理者の調査、認定プロセス、審議会開催)</p>		

(2) 事務事業の手段・対象・意図と各指標、指標値の推移							
①手段 (担当者の活動内容)	④活動指標 (活動量を表す指標)	単位	28年度 (実績)	29年度 (実績)	30年度 (計画)	31年度 (目標)	32年度 (目標)
<ul style="list-style-type: none"> 空家等の抑制 所有者等による空家等の適切な管理 空家等の利活用(空家バツなど) 総合相談・苦情窓口 	空家等対策推進協議会の開催(連絡調整会議を含む)	回	1.00	0.00	8.00	8.00	0.00
	空家バツ登録数	件	0.00	2.00	10.00	10.00	0.00
	特定空家認定数	件	0.00	0.00	2.00	2.00	0.00
	苦情・相談数	件	0.00	21.00	20.00	20.00	0.00
②対象 (誰、何を対象にしているのか)	⑤対象指標 (対象の大きさを表す指標)	単位	28年度 (実績)	29年度 (実績)	30年度 (計画)	31年度 (目標)	32年度 (目標)
空家	住居する建物総数(H25住宅・土地統計より)	棟	14,900.00	14,900.00	14,000.00	14,000.00	0.00
	空家数(H26空家実地調査住宅数)	棟	578.00	578.00	578.00	578.00	0.00
	改善空家数(利活用・特定空家数の累計)	棟	0.00	2.00	5.00	9.00	0.00
③意図 (この事業によって対象をどう変えるのか)	⑥成果指標 (対象における意図の達成度を表す指標)	単位	28年度 (実績)	29年度 (実績)	30年度 (計画)	31年度 (目標)	32年度 (目標)
空家の適切な管理	空家率(空家数/住居する建物総数)	%	3.88	3.88	3.88	3.88	0.00
	改善率(改善空家数/空家数)	%	0.00	0.35	0.87	1.56	0.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

(3) 投入量(事業費)の推移			28年度 (実績)	29年度 (実績)	30年度 (計画)	期間限定総投入量	
投入量	事業費	国庫支出金	千円	0	225	225	0
		県支出金	千円	0	0	0	0
		地方債	千円	0	0	0	0
		使用料・手数料	千円	0	0	0	0
		その他	千円	0	0	0	0
		一般財源	千円	462	2,104	496	0
	事業費計(A)	千円	462	2,329	721	0	
人件費	正規職員従事人数	人	6.00人	2.00人	2.00人		
	述べ業務時間	時間	440.00	1,900.00	1,900.00		
	人件費計(B)	千円	1,287	5,558	5,558		
トータルコスト(A)+(B)		千円	1,749	7,887	6,279		

事業費の内訳	29年度事業費 実績(千円)			30年度事業費 予算(千円)			
	01 報酬	120		01 報酬	120		
	09 旅費	7		09 旅費	7		
	11 需用費	92		11 需用費	92		
	13 委託料	1,610		13 委託料	1		
	19 負担金補助及び交付金	500		16 原材料費	1		
				19 負担金補助及び交付金	500		
合計			2,329	合計			721

(4) 当該年度の実施内容		30年度の事業内容	31年度の事業内容	32年度の事業内容
<p>※下記に該当する事業は、年度ごとに事業内容を記入する</p> <ul style="list-style-type: none"> 主要事業 市長マニフェスト 未来PJ事業 合併建設計画事業 				

事務事業名	空き家対策事業	事務事業No.	50202000697	所属課	都市整備課
-------	---------	---------	-------------	-----	-------

【Do】 1. 事務事業の現状把握(その2)

(5) この事務事業を開始したきっかけは、いつ頃どんな経緯で開始されたのか? 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか? 地域における人口減少や既存の住宅等の老朽化、社会的ニーズの変化及び産業構造の変化に伴い、居住その他の使用がなされていない空家等が年々増加しています。 これらの中には、適切な管理が行われていない結果として安全性の低下、公衆衛生の悪化、景観の阻害等多岐にわたる問題を生じさせ、地域住民の生活環境に深刻な影響を及ぼしているものがあり、国の政策として「空家等対策の推進に関する特別措置法」が平成26年11月27日が施行された。
(6) この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者)からどんな意見や要望が寄せられているか? 東日本大震災以降、多くの空き家が破損したままになっているところが多く、改善の対応を求められている。 管理されていない空家について、近隣から雑草の繁茂、トタン等の飛散の苦情がある。 空家を探しているが、情報はありますか。
(7) 前回の事務事業評価に対する改革・改善の具体的内容 空家に関する相談について各課受けたところが対応しており、空家の相談、利活用の空家の総合相談窓口を設置する必要があるりましたが、H29年度から統一窓口になります。 また、成果を急ぐのであれば、事業費の投入も検討しなくてはならないと考えます。

【See】 2. 評価の部 *原則は事前評価。

評価項目	
目的 妥当性	①政策体系との整合性 (この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか?意図することが結果に結びついているか?) <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている 空家等対策の推進に関する特別措置法に基づき、市政策体系と合致します。
	②公共関与の妥当性 (なぜこの事業を市が行わなければならないのか?税金を投入して、達成する目的か?) (法定受託事業はその名称) <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である 空家の適切な管理により、市民が安全に安心した暮らしと生活環境の確保のための事業であるために妥当です。
有効性	③成果の向上余地 (成果を向上させる余地はあるか?成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか?何が原因で成果向上が期待できないのか?) <input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある 各課バラバラで行っていた空家の対策について、平成29年度に統一の窓口を創設したため、向上の余地は大いにあります。
	④廃止・休止の成果への影響 (事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は?) <input checked="" type="checkbox"/> 影響有 桜川市第2次総合計画に描くため、市政策体系の見直し等の影響は大きいです。
	⑤類似事業との統廃合・連携の可能性 (類似事業や統廃合の可能性はありますか? (市以外の取り組みも含む)) (他に手段がある場合) → 具体的な手段、事務事業名 <input checked="" type="checkbox"/> 余地がない 空家等対策の推進に関する特別措置法に基づき、施行しており類似事業はない。また、取組み始めたばかりの事業で、民間事業所との連携が取れない状況です。
効率性	⑥事業費・人件費の削減余地 (成果を下げずに事業費を削減できないか?やり方を工夫して延べ業務事業を削減できないか?) <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない 平成29年度から始まったばかりの事業であり、成果もまだまだ上がっていない。さらに経費を掛けていかないと事業が軌道に乗らない状態です。
公平性	⑦受益機会・費用負担の適正化余地 (事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか?受益者負担が公平・公正になっているか?) <input checked="" type="checkbox"/> 公正・公平である 空家の問題だけでなく、近隣の周辺環境や景観更、防災等に大きく影響し、空家の適正管理は地域にとっても有益です。

【Plan】 3. 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)

(1) 1次評価者としての評価結果 ①目的妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ②有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり ③効率性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ④公平性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	(2) 全体総括(振り返り、反省点) 昨年度に策定した空家対策計画に基づき、空家バンクの設置、適正管理の促進を図るための条例策定・パンフレットの作成を行った。今後は空家バンクによる利活用促進と、適正管理・特定空家への対応について、空家対策推進会議に諮りながら事業を展開する。																					
(3) 今後の事業の方向性 <input type="checkbox"/> 終了 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 改革改善を行う <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止	(4) 改革・改善による期待成果 (終了・廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上			○	維持			×	低下			×
				コスト																		
		削減	維持	増加																		
成果	向上			○																		
	維持			×																		
	低下			×																		
(5) 改革, 改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策																						
(6) 事務事業優先度評価結果 成果優先度評価結果 コスト削減優先度評価結果																						

【Check】 4. 確認及び改革改善に向けての指摘事項

(1) 課長評価 課長確認後の評価 <input type="checkbox"/> A: 継続(現状維持) C: 終了、廃止、休止 <input type="checkbox"/> B: 継続(改革改善を行う) D: 2次評価へ提出	(2) 部長確認及び評価 (課長評価により、C、D判定及び確認が必要な場合) 確認欄 <input type="checkbox"/>
--	---